

第1号議案 平成26年度事業報告

要 旨

<概要>

平成26年度は、公益法人移行後3年目を迎え、新制度への移行も円滑に進捗し、民間公益活動の視点から活発な活動を進めることが出来た。

特に、コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立に邁進するため、「公益法人運営委員会」を中心に、各種規程類の整備を進めるとともに、全国32支部とのコミュニケーションの円滑化のため支部会議の充実を図った。

さらに、公益法人化に伴う会計処理の適正化、各種寄付の増加に対応するための必要な規程類の整備に務めた。

I 登山振興事業については、若年層への総合的対策として、平成24年度にYOUTH CLUBの拡充改組を行ない、推進体制の見直しを行った結果、雪山天気予報の充実、雪崩講習会及び冬山登山指導事業の積極的な展開など従来にも増して活性化を図ることが出来た。

本会が提唱して始まった「山の日」制定運動は6年目に入り、他の山岳団体と協同して進めている「山の日」制定協議会に所属する山岳団体メンバーとして国会での祝日法改正の動きに寄与した。

平成25年4月に発足した超党派の「山の日」制定議員連盟の総会にオブザーバーとして出席し、資料を提供するなどして祝日法改正の動きに寄与した。議連は8月11日を「山の日」とし、平成28年から施行する、などを内容とする議員立法議案を平成26年3月28日に衆議院に提出し、5月23日、平成28年から8月11日を国民の祝日「山の日」とすることが決まった。

海外登山については27年度上期実施を含め5隊に助成、その内、ネパール大地震により出発を延期する1隊を除き、それぞれの隊が大きな成果を挙げた。

一般登山者を対象とする登山教室については、昨今の登山ブーム及び未組織登山者の増加の影響によると思われるが希望者も多く、形態は継続的教室、短期的講習会など様々であるが現在、ユースクラブ及び15支部で行われている。

身体障害者支援登山は当初はごく一部の支部で始められたが、現在は視覚障害者、知的発達障害児及び自閉症者などが健常者と同じように登山を楽しむことを支援し、身体障害者の心身の健康維持に貢献することを目的としている事業である。26年度は支部間の情報交換を目的として情報交換会を実施した。

25年度から国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を得て「親子で楽しむ山登り」と題した親子登山教室のWebサイト（教材）掲載を開始してお

り、この企画は、支部の活性化と公益活動の向上も期待出来ることから、26年度も継続して実施した。

平成27年に本会は設立110周年を迎える。その準備のため、110周年記念事業実行委員会では「若手会員の育成及び会員の増強と各支部の活性化を図る」との命題を掲げ、そのための事業を企画した。

Ⅱ山岳研究調査事業については、上高地山岳研究所を利用した上高地における各種登山活動、小規模水力発電の研究などを行っており、上高地山岳研究所が活発な活動拠点として機能している。また、福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、山岳地域の放射線量を前年度に引き続き継続して測定している。さらに、国土地理院が整備する地図における登山道情報の正確性を維持・向上させるため、全国の主要な登山道に関する情報交換を行なう等、新たな活動も進めている。

Ⅲ山岳環境保全事業については、山地が国土の70%を占める我国において、そこを活動のフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保護は重要課題の一つである。「高尾の森づくりの会」は小学生から大人までを対象にそれぞれ対象者の要望に応じた森づくり活動を進めているだけでなく、「三宅島」、「気仙沼大島」等での活動にも取り組んでいる。それとは別に全国11支部においても相互に連絡を取りつつ森づくりに取り組んでいる。

毎年行われている自然保護全国集会は11月21日に広島市で行われ、宮城支部の山地における放射能汚染調査、静岡支部によるリニア新幹線に関する報告等が行われた。また、上高地においても一般観光客に対して山岳環境保全のPRや上高地内を案内し、自然観察を行うネイチャーガイドを実施した。

法人管理については、平成25年10月15日には個人が本会に寄付した場合の税額控除制度の適用に係る証明を内閣総理大臣から受けることが出来た。

これら寄付の増加に適切に対応するため、受入体制の確立を図り合わせて規程類の整備を進めた。その結果、寄付金についても多くの申し出があり、付属明細書に記載のとおり総額で3,450万円の実績を得た。

<会員動向>

本会はここ10年以上にわたって、高齢化、会員減少が続いていたが、会員数は平成27年3月現在5036名であり、ここ3～4年間は、ほぼ横ばいとなっている。それまでは毎年100名程度減少していたが、現在は概ね歯止めが掛かりつつあり、26年度は258名の新入会員の入会があった。

I 登山振興事業（公益目的事業 1）

1 秩父宮記念山岳賞 定款第4条第1項第9号

秩父宮家より拝受した遺贈金を基金として積立て、山に関連する顕著な業績に対してこれを表彰し、もって登山活動の奨励と山岳関連文化の高揚に資することを目的としている。毎年実施しており、平成26年度は下記のテーマに決定し12月6日表彰した。

「湿潤アジア山岳の垂直分布帯の成立と保全に関する生態学的研究」

大澤雅彦氏

2 海外登山助成制度による助成金の支出 定款第4条第1項第6号

外部団体を含む、海外登山の助成及び海外登山を目標とするプロジェクトへの支援を図ることを目的とし、年2回実施した。ホームページ及び山岳関連雑誌等により周知するとともに、各山岳団体に推薦を依頼した。平成26年度は以下の5隊に助成した。

- (1) テンギ・ラギ・タウ峰登山隊 2014
- (2) 東京農業大学山岳会ムスターグ・アタ峰登山隊 2014
- (3) 学習院大学輔仁会山岳部インド・ヒマラヤ登山隊 2014
- (4) 法政大学体育会山岳部アマダブラム登山隊 2014
- (5) 神奈川大学タサルツェ峰遠征登山隊 2015

3 機関誌「山岳」発行事業 定款第4条第1項第7号及び第8号

「山岳」は1906年に発刊され、現在まで109年間に亘り山岳に係る多くの国民に向けて、登山、探検、地理・地質、気象、自然保護、人物史及び図書紹介など記録、研究・論考等を掲載しており、会員に向けた機関誌にとどまらず、各地の図書館、山岳博物館、登山愛好者、山岳環境の保全に関心を寄せる多くの人たちに読み継がれてきている。書店（発売元は茗溪堂）でも販売され、会員でなくても入手可能となっている。海外にも送付しており、貴重な情報として高い評価を受けている。平成26年度は第百九年を発刊、合わせて約5500部を送付した。

4 「ジャパニーズ・アルパイン・ニュース」発行事業 定款第4条第1項第7号及び第8号

英文の「ジャパニーズ・アルパイン・ニュース」は2001年発刊され、現在まで毎年発行している。内容はパイオニア的遠征、記録に値する登攀と探検、科学的フィールド調査、環境問題、社会貢献などの分野である。現在、海外へは組織として64カ国126団体及び個人として48ヶ国574人へ情報発信をしている。平成26年度はNo.15を発行した。内容としては日本山岳会と日本の登山、ブータンヒマラヤにおける氷河湖変化、などの特集記事3報、登山記録12報、地域情報4報など計136頁に及んでいる。

5 雪山天気予報 定款第4条第1項第4号

北アルプス北部及び南部、八ヶ岳の3地域における冬山、春山の天気予報を山岳専門の気象予報士に依頼してきめ細かく作成し、電子メールで広く配信している。山の天気予報で求められるのは、登山者の安全と、登頂チャンスを見逃さないという観点から気象を予測することが

大切であり、この予報により行動計画を変更した登山者から多くのメッセージが寄せられている。YOUTH CLUBにて実施。

6 シンポジウムの開催 定款第4条第1項第1号

山岳に関係した気象、植物、登山用具、高所医学、登山食料計画、登山技術など各分野のシンポジウムを開催している。

平成26年5月に第34回一般社団法人日本登山医学会学術集会の支援、平成27年3月15日にフォーラム「登山を楽しくする科学」を立正大学大崎校舎で実施した。このフォーラムは「南極探検と観測の歴史と成果」、「サポートタイツの使用効果」、「山の形はどうして違うのか」のテーマについて実施した。一般参加者は約130名。登山を科学の目でとらえ、楽しく登山をする知識、役に立つ情報を提供した。今回で7回目であり、新聞などで公募した。好評のためリピーターも多い。支部等の活動については別表に記載。

7 「山の日」制定プロジェクト 定款第4条第1項第9号

本会は、他の山岳団体(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト)と協同して山の美しく豊かな自然を守り、育て、次の世代に引き継ぎ、国土の保全を目指す運動として国民の祝日「山の日」制定プロジェクトを進めて来た。平成25年11月21日、国会議員、地方自治体の有志、企業・財界人、有識者、山岳団体などで構成する全国「山の日」制定協議会が発足。本会は法人会員として加盟し、多くの会員有志も個人会員として全国協議会に加わった。一方平成25年4月に発足した超党派の「山の日」制定議員連盟の総会(地方を含め14回開催)にオブザーバーとして出席し、資料を提供するなどして祝日法改正の動きに寄与した。議連は8月11日を「山の日」とし、平成28年から実施する、などを内容とする議員立法議案を3月28日に衆議院に提出し、5月23日に平成28年から8月11日を国民の祝日「山の日」とすることが決まった。これに伴い、全国「山の日」制定協議会はその名称を全国「山の日」協議会と改め、規約を改正して「その意義を広く国民に伝えること」を活動目的とした。本会も、6月以降、高尾山、宇都宮、上高地、米子、広島などで開かれた集会でアピール活動を展開するとともに、活字メディア、インターネットを通じて「山に親しみ、山の恩恵に感謝する」という祝日の趣旨周知に努めた。平成27年3月28日・29日に東京国際フォーラムにおいて全国「山の日」協議会主催による『全国「山の日」フォーラム』に、山岳5団体としてまとまって参加することを決め、講演・パネルディスカッションにかかわるとともに、展示ブースで、これまでの山岳団体の取組み、「山の日」の意義周知のための今後の活動をアピールした。支部等の活動については別表に記載。

8 インターネットによる情報提供事業 定款第4条第1項第9号

本会及び山岳関係の情報掲載を中心に運営している。25年度から新たに国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を得て「親子で楽しむ山登り」と題した親子登山教室のWebサイト(教材)掲載を開始した。これは一部の支部で子供を対象とした登山活動を行なっているが、これを全国規模で展開し、次世代を担う子供たちが自然に接し、生命や自然への関わりを自覚し、健康や体力を育成することを目的とするための活動で、全ての支部が参加して登山

コースを紹介している。平成 26 年度はサイト「親子で楽しむ山登り Vol. 2」を作成した。これにより、支部の活性化と公益活動の向上も期待出来る。次年度以降も各支部と連携し拡充を図る。それ以外の支部等の活動については別表に記載。

9 登山教室の実施 定款第 4 条第 1 項第 1 号

山の遭難や怪我などを減少させ、安全な登山を目指した初心者向け登山教室を各地で開催している。新聞社等の開催する登山教室にも指導者を派遣している。平成 26 年度も各支部において実施しており、詳細は別表に記載。

10 雪崩対策講習会 定款第 4 条第 1 項第 1 号

平成 27 年 1 月 17～18 日に劔岳の国立登山研修所の協力を得て、全国各地の冬山の上級指導層育成のための「冬山雪崩対策講習会」を実施した。雪崩回避と雪崩搜索の理論、フィールドにおけるビーコン等を用いた搜索の総合演習、怪我人搬送等、リーダー層にとって必要な研修を密度濃く実施出来た。参加人員は 21 名。YOUTH CLUB にて毎年実施。支部等の活動については別表に記載。

11 全国安全登山普及講習会 定款第 4 条第 1 項第 4 号

劔岳の国立登山研修所の後援を得て、9 月 19～23 日に劔岳において実施した。毎日 5 コースに分かれ、登攀技術、ロープワーク、コミュニケーション、雪渓歩き、ルート・ファインディング、ペース配分、危険箇所での判断など総合的な実技研修による上級指導層育成を図った。また、富山県警山岳警備隊員による事故事例の事例と対応の紹介なども行われた。参加者 37 名。YOUTH CLUB にて実施。

12 身体障害者支援登山 定款第 4 条第 1 項第 9 号

視覚障害者（主として全盲者）、知的発達障害児、自閉症者など日頃、屋外での活動が少ない身体障害者に対し、健常者と同じように登山を楽しむことを支援し、身体障害者の心身の健康維持に貢献することを目的としている事業で、平成 26 年度も YOUTH CLUB 及び各支部において実施した。また、各支部間の情報交換を行うため「全国ボランティア登山情報交換会」を実施した。それぞれの活動については別表に記載。

13 少年補導委託登山 定款第 4 条第 1 項第 9 号

少年院等に入所している非行青少年を対象に、当局の依頼により保護者、家庭裁判所関係者合同の登山支援を行っている。登山を通じて、人格の健全な発達を目標にした活動。苦しいことを成し遂げた後の感動が非行少年に大きな影響を及ぼすことで、関係者、保護者からは大きな評価を得ている。平成 26 年度も宮崎支部にて実施予定であったが、非行青少年が減少したため対象者がおらず実施しなかった。

必要に応じて実施出来る体制は維持する。

1 4 海外交流事業(日・中・韓3国学生交流登山) 定款第4条第1項第8号

本会、中国登山協会及び韓国山岳会が協力し、日本、中国、韓国の学生が3国を相互に訪問しながら交流登山を行い、登山技術の習得を中心にした交流を行っており、学生の国際理解にも貢献している。平成26年度は韓国で8月6日から12日まで開催された。会場は北漢山国立公園で、日本から学生10名スタッフ4名が参加した。3ヶ国合計で42名の参加者であった。(YOUTH CLUBが担当)。

1 5 青少年の体験登山 定款第4条第1項第1号

青少年体験登山大会：初心者を対象に山登りの楽しさ、面白さを体験してもらい、登山の普及につなげていくことを目的に、青少年を始め、一般の初心者も対象に募集し、一日日帰り登山を久住山で実施、今年で13回目。(平成26年9月23日東九州支部で実施。参加者・一般参加者52名)

小学生・中学生(自然児学校)：夏休みに国立日高青少年自然の家・からまつキャンプ場をベースにキャンプをして登山を行ない、森・川・山をフィールドとする生活を体験し、自然の美しさと厳しさに接することにより、自然保護・共生の精神を育むことを目的として毎年北海道支部で実施しているが本年は台風のため中止した。

その他の支部等の活動については別表に記載。

1 6 登山道整備、登山道清掃 定款第4条第1項第3号

登山道の刈り払い、倒木除去、案内板の設置、清掃等を各地の支部で本年度も実施した。支部等の活動については別表に記載。

1 7 山岳自然観察会の実施 定款第4条第1項第5号

各地域の登山愛好者向けにその地域山域内の自然観察会を行った。支部等の活動については別表に記載。

1 8 日本山岳会設立110周年記念事業 定款第4条第1項第1号

平成27年に本会は設立110周年を迎える。その準備のため110周年記念事業実行委員会を立ち上げ、「若手会員の育成及び会員の増強と各支部の活性化を図る」を命題として掲げ、以下の事業を企画・実行している。

(1) 平成26度中に実施した事業は以下の通り。

- ・海外登山(支部主催：埼玉支部チュルー最東峰4月、東海支部ピアクシー峰7月、極限探求：ガンガプルナ北稜3月、学生部：女子隊マンセイル峰8月)
- ・出版事業(日本三百名山の発行)

(2) 平成27度実施に向けて準備中の事業は以下の通り。

- ・海外登山(支部主催・学術調査・学生部：審査中、極限探求：ウルタルII峰他審査中)
- ・記念ツアー(日本三百名山ツアー、ブータンヒマラヤトレッキング、グレートヒマラヤトレイル)
- ・国際交流(日中韓三国学生交流登山)

- ・出版事業（ヒマラヤの東一地図帳、辺境からの発信、インド・ヒマラヤ、新日本山岳誌第2版等（いずれも仮題））
- ・シンポジウム（山岳医療シンポジウム：名古屋夏山フェスタ他1か所で開催予定）
- ・記念式典（平成27年12月5日、新宿京王プラザホテルにおいて年次晩餐会と併せて開催予定。）

II 山岳研究調査事業（公益目的事業2）

1 上高地山岳研究所 定款第4条第1項第5号

日本の代表的山岳地帯である上高地における登山活動、海外からの登山隊、小規模水力発電設備など山岳研究の基地として活用している。また、山岳環境保全活動でも利用している。

2 山岳図書館の運営事業 定款第4条第1項第8号

我国唯一の山岳図書館として、本会の内外に利用されている。蔵書は明治以降の日本の山岳に関するあらゆる分野の図書を網羅している。蔵書数は和書12,235冊、洋書3,901冊である。26年度閲覧者は会員約350名、非会員約20名。図書委員会の活動については別表に記載。

3 小規模水力発電の研究 定款第4条第1項第5号

山岳地域における環境保全に貢献するため、沢の水を利用した小規模水力発電を行い、発生した電力により照明、通信、生ごみ処理など山岳施設などで役立てる研究であるが、地域での発電消費を自己完結するスマートグリッド研究や適切なバッテリー容量の指針づくりにも生かされている。

神奈川工科大学との共同研究で本会上高地山岳研究所敷地内に発電機及び付帯設備を設置し研究しており、26年度も引き続き実施した。各分野からの関係者の見学も多く山岳研究所運営委員会で対応。

4 資料映像研究 定款第4条第1項第2号

本会発足以来100年以上にわたって蒐集してきた山岳、登山技術に関する研究資料、絵画、映像資料など調査・研究を行い、併せて収蔵資料の公開などを行なっている。また、全国山岳博物館等連絡会議を発足させ、各山岳博物館の情報交換を行い、山岳博物館の価値を高める活動を続けている。

本年度は、11月22日に第18回全国山岳博物館等連絡会議を日本山岳会において開催した。7館の学芸員7名、本会資料映像委員5名が参加し、各館の研究成果や企画展の内容等の報告を行い、山岳文化振興に向けて意見交換を行った。

参加博物館は以下のとおりである。谷川岳山岳資料館、松本市山と自然博物館、市立大町山岳博物館、富山県「立山博物館」、植村記念財団植村冒険館、東京都写真美術館、北区飛鳥山博物館。

また、本会から以下の各館企画展への資料貸出しと協力を行っている。立山博物館、東京都写真美術館、東京都北区飛鳥山博物館。

5 マッキンリー高所気象観測プロジェクト 定款第4条第1項第5号

アラスカ州マッキンリー山(6194m 北米大陸最高峰)の山頂近くで1990年以来20年間以上気象観測を続けており、毎年、機器の整備のため高レベルの登山隊を派遣して来た。2002年からはアラスカ大学も参加している(リーダーは本会)。目的は世界最高所での連続気象データ蒐集に合わせて山岳地域における気象遭難防止と高所登山戦略に役立てることにあり、世界でも最高所での連続データ蒐集で、気象研究の上でも意義ある研究である。20年間の気象観測機器設置許可終了に伴い、2010年度から中断していたが電源開発株式会社の支援を得て2014年度から再開した。新しい機材ではデータ回収の必要もなく、マッキンリー山の気象を衛星電話回線により常時モニターできる。

6 山岳地域の空間放射線測定 定款第4条第1項第5号

福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、一般には調査困難である山岳地域の放射線量を宮城支部、福島支部で測定している。宮城支部では平成25年度に実施した測定について、北上山地を中心とするエリアの補完調査を行った。なお、平成25年度実施結果の報告書を県内地方自治体、日本山岳会等関係機関に配布した。福島支部では福島県主要山域(吾妻、安達太良、那須・甲子)について、通年実施した。その数値は非公開として、支部が独自にデータ化している。調査期間は4月から10月までの7ヶ月間である。

7 登山道調査等国土地理院との連携事業 定款第4条第1項第3号

本会は国土地理院が整備する地図における登山道情報の正確性を維持・向上させるため、国土地理院測図部との間で協定を結び、全国の主要な登山道に関する情報交換を行っている。さらに、国土地理院が実施している「電子国土賞」の推薦団体となっており、ホームページ等で募集を行った。応募があった森田伸二氏(岐阜県在住・非会員)の作品「MapMaker シリーズ」が、優れたGISソフトウェアとして2014年度の電子国土功績賞を受賞した。

Ⅲ山岳環境保全事業(公益目的事業3)

1 森づくり活動 定款第4条第1項第5号

林業従事者が減少した現在、放置された人工林は間伐が必要な時期になっても作業が全く進んでいないため、根が張らず育ちが悪く、保水力も低下し表土を抑える力も弱く水源涵養林としての機能低下に加え、山崩れなどの可能性も増加している。本会では「高尾の森づくりの会」を中心に全国で「森づくり」を展開して活動を続けている。

中心となる「高尾の森」では、以下の活動を展開している。

(1) 親子森林体験スクール

京王電鉄と共催しているもので、毎年春(4,5,6月)と秋(9,10,11月)の2回こげざわ小下沢で行っている。親と子のペアで参加し、作業道作り、間伐、下草刈り、森林の観察、水生昆虫の観察等を通じて親子で自然の仕組みを勉強出来るカリキュラムを組んでいる。毎回親子で参加する人数は50人から60人。

(2) 学生への森林体験学校

東京に所在する専門学校滋慶学園からの要請で行っている。学生の多くは水族館の職員を目指しているが、水生動物が棲む水の成り立ちを知る上で欠かせない授業となっている。2回の教室での座学と2回の現地作業で構成され、山に入った事のない学生にとって非常に印象に残る授業となっている。参加者は毎回80人から100人。

(3) 小学生のキャンプと森林体験スクール

東京下町の小学校の父親と子供（母親は参加しない）によるキャンプと自然体験を夏休みに実施。毎回100人の参加者があり、下町の子供たちにとってかけがえのない自然体験教室になっている。毎回小下沢の沢登りを行い、父親と子供が力を出し合って澤を登りきる事は普段子供と接する事の少ない父親にとっても貴重な体験となっている。

(4) その他の活動

上記以外に「三宅島緑化再生プロジェクト」、「気仙沼大島復興プロジェクト」、「佐川急便の森づくり協力」及び「ラオス植林プロジェクト」等に取り組んでいる。新たに新潟県魚沼市においても森林整備の準備を進めている。

東日本大震災で森林火災に会った大島亀山の森林整備、登山道整備、海岸林整備、椿の森整備等の作業を春、秋の年2回行っている。

これらの活動には本会会員以外に年間3000人以上の一般ボランティアが参加している。会員外の市民を対象に専門の研究者を講師に招きセミナーや現地における研修も常時実施している。

本会支部は32あるが、現在は11支部が「森づくり」を行っている。「山の日」制定など山を取り巻く各地域の関心の高まりから今後も「森づくり」に取り組む支部が増加してくると思われる。支部等の活動については別表に記載。

2 山岳環境保全活動 定款第4条第1項第5号

山地が国土の70%を占める我国において、そこを活動のフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保護は課題の一つである。

平成26年度の自然保護全国集会は山岳団体自然環境連絡会(日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟、HAT-J、山のECHO、日本山岳会で構成)の協力を得て11月21日に広島市内で行われた。一般参加者10名。NHK報道局チーフプロデューサー井上恭介氏による基調講演「里山資本主義 里山が宝の山に変わる瞬間」、宮城支部の山地における放射能汚染調査、静岡支部によるリニア新幹線に関する報告。22日以降は国内、海外の山岳団体と合同で行事を行った。

「山のフィールドマナーノート」、「山のトイレマナーノート」などの登山者全般に対する啓蒙活動を行う一方、長野県上高地において毎年夏季のピーク期の間、各宿泊施設・ホテル等で一般観光客に対して山岳環境保全の講演会を現在までに21年間行ってきた。また、環境省認定のパークボランティア有資格者により上高地内を案内し、自然観察を行うネイチャーガイドを進めながら、小中学生を対象に子供スケッチ会を開催、自然を見つめる目の育成に努めている。

資料として「上高地自然観察ポイント地図」と「上高地ガイドウォークマニュアル」を作成し、教材として活用するとともに関係方面に配布している（上高地における対象者は毎年約400人程度）。山岳環境保全活動に関する支部等の活動については別表に記載。

IV 会員向け事業（他1）

1. 会員を対象に定期的に登山活動を指導する（詳細は別表に記載）。
2. 会員相互の文化的活動の支援を行なう（詳細は別表に記載）。
3. 会員を対象に年次晩餐会及び全国支部懇談会を開催する（別表に記載）。
4. 会員向けに日本山岳会ロゴ入り登山用具の頒布を行う。
5. 会員向け山岳傷害保険の斡旋を行う。
6. 会員向けに会報「山」の発行を行う（別表に記載）。
7. 会員向けに上高地山岳研究所を研究基地として開放する。

V 法人管理

1. 業務執行体制

公益法人としてのコンプライアンスの徹底とガバナンスの確立に邁進するため当年度においては、理事会運営及び執行理事の業務の適正性を確保するために、理事会運営規程の一部改定を行い、同時に理事職務権限規程を新設した。本会には現在32支部が設立されているが、全国を網羅するには未だ不十分であり、会員が活動する基盤としての機能を十分果たしていない。特に関東地方において支部の充実が要請されている。

また、委員会は、理事会の指導のもとに本会が行っている諸活動の中核的役割を担っており、既存各委員会の活動がマンネリ化に陥らないよう注意喚起する中で、いくつかの変更を行い活動の活性化を図ってきた。若手育成に経験者の知見を活かし、総合力を発揮させることを目指して関係する委員会をYOUTH CLUBに統合して若い会員を呼び戻す起爆剤とし、活動の活性化を図った。

新法人の発足に合わせ、各種規程類の整備を進めるとともに全国32支部と本部との会計処理の一体化をはじめコミュニケーションの円滑化を進めてきた。（組織図は添付資料に記載）

2. 寄付金受入体制の整備

さらに、公益法人化に伴い寄付金についても多くの申し出度があり、加えて平成25年10月15日には個人が本会に寄付した場合の税額控除制度の適用に係る証明を内閣総理大臣から受けることが出来たこともあり、寄付金、助成金等（補助金を含む）の総額は、34,501千円で、前年度比25.4%の増加となり予想以上の成果を得た。

これら寄付の増加に適切に対応するため受入体制の確立を図り合わせて関係する規程類の整備を進めた。

3. 会議等

通常総会の開催	1回
理事会の開催	11回
常務理事会の開催	12回
支部長会議	1回
支部会議(支部長事務局長合同会議)の開催	1回

<会員動向>

本会はここ10年以上にわたって、高齢化、会員減少が続いていたが、会員数は平成27年3月現在5036名、平均年齢もここ3年間は、ほぼ横ばいとなっている。それまでは毎年100名程度減少していたが、現在は概ね歯止めが掛かり、26年度は258名の入会があった。

	年度末会員数 (内永年会員数)	
平成16年度末会員数	5735名	(106)
平成17年度末会員数	5635名	(111)
平成18年度末会員数	5543名	(138)
平成19年度末会員数	5470名	(166)
平成20年度末会員数	5317名	(189)
平成21年度末会員数	5184名	(240)
平成22年度末会員数	5109名	(257)
平成23年度末会員数	5056名	(284)
平成24年度末会員数	5083名	(299)
平成25年度末会員数	5056名	(326)
平成26年度末会員数	5036名	(347)
名誉会員	12名	(対前年末 -2名)
永年会員	347名	(対前年末 +11名)
終身会員	74名	(対前年末 -17名)
通常会員	4339名	(対前年末 -22名)
青年会員	52名	(対前年末 +8名)
夫婦会員	128名	(対前年末 -10名)
団体会員	84名	(対前年末 +2団体)
計	5036名	(対前年末 -20名)

別表 支部・委員会の活動

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-6 シンポジウム・講演会の開催	秋田	11月22日 岩崎元郎氏講演「健康登山in秋田」を後援。 秋田市にぎわい交流館で開催。参加者約180名
	山形	一般市民対象講演会 南極越冬隊長の南極の自然や観測隊の生活の講演会。8月31日一般市民出席者 約80名
	茨城	講師を外部または会員に依頼し、登山・山関連や海外登山などに関する講演を実施。4月、6月、9月、11月、1月の5回実施した。一般参加者は年間69名
	栃木	「アムールトラ」に関する講演会を開催し、絶滅危惧種の野生動物保護の啓蒙活動を行った。12月に実施。一般参加者53名
	埼玉	「ハイキングレスキュー講習」、「第7回安全登山読図講習会」及び埼玉県山岳救助隊による実際の事例の講演を年3回実施した。
	千葉	千葉支部主催によるシンポジウム「富士山と房総を語る集い」の実施 6月29日。同シンポジウムに関連した自然観察会の実施。11月8日
	東京多摩	講演会「山岳遭難は誰にも起きる」、「世界の山々を旅して」を10月、2月に実施。550名参加。
	越後	毎年7月25日に新潟県登山祭として高頭祭を実施している。本年は 支部及び一般参加者80名。記念式典終了後、日本山岳会森会長より「祝日山の日制定と今後の活動」と題し記念講演を行った。その後清掃登山をしながら弥彦山頂に移動し、日本山岳協会神崎会長の記念講演「地球の三極、(北極・南極・エベレスト)」と題し記念講演を行い、支部会員による弥彦山清掃登山も実施。
	富山	山岳講演会を平成27年2月24日、富山市民交流館で実施、参加者88名 「『越中の百山』から『富山の百山』へ」 講師：日本山岳会富山支部長 山田 信明氏
	信濃	《登山がもたらす豊かな人生、山の魅力を次世代へ》をテーマに11月29日、30日に松本市主催により開催。各種展示会、講演会などを開催。このフォーラムに関係団体と共に事務局として参加した。
	岐阜	山岳講演会「山小屋から見た日本のエネルギー問題と「山の日」」(講師:日本山岳会会長 森 武 昭 氏)を開催した。一般参加者を含めて86名の聴講者であった。 山岳写真展12月1日～12月28日 岐阜市内で実施。180名参加。
	京都滋賀	京丹後市の教育委員会からの依頼を受け、安全登山を普及させるためのスキルアップ講座を2月、3月に計4回開催した。支部会員が講師を務め、実践登山では、指導者、補助員として参加した。一般参加者は抽選で選別された20名。
	関西	著者と語る会・・・11/15、大阪府立図書館にて、成瀬陽一氏による講演会を実施した。参加者25名
四国	第2回小島烏水祭に伴う日本山岳会森会長による講演会実施。	
I-7 「山の日」プロジェクト	東京多摩	6月1日、高尾山清滝駅前前で「山の日アピール集会」実施。アピールビラ配り。支部員40名参加。
	山梨	第10回山の博覧会(富士山特集)を7月5日(土)甲府市・山梨学院メモリアルホールにて開催した。参加者一般430名、会員30名、山梨県やまなし山の日実行委員会、山梨学院生涯学習センターが共催。「登拝修行」放光寺住職 清雲俊雄氏、「青木ヶ原樹海」山梨日日新聞記者 前島文彦氏、「山の日と男の友情」作曲家 船村徹氏が講演し、「山の日」祝日制定を記念した。
	信濃	6月1日に上高地ウェストン碑前において「ウェストン祭」を実施した。山の美しさをたたえ 登山の安全を祈るためのイベント。記念講演は花谷泰弘氏。一般参加者約300名。
	東海	「山の日」制定に向け、山の恵みについて考えようをテーマに山岳関連総合イベント「第2回夏山フェスタ」を愛知県産業労働センターにて6月7～8日開催、。主催の実行委員会に全面協力。6650名来場
	山陰	第1回「山の日」を語る米子集会 の開催 (8月8日 米子コンベンションセンター) 参加者300名
	広島	「ひろしま『山の日』県民の集い」実行委員会の主要メンバーに、加わり、官民一体となってひろしま「山の日」県民の集いを実施してきた。第13回の26年度は、広島支部は5/31(土)「霧ヶ谷湿原 自然再生地」(下流部2.5ha)の保全活動を行い、6/1(日)には北広島会場(14名参加)と東広島会場(21名参加)で初心者向けの登山教室を行った。
	福岡	「岳人のつどい」山の講演会。2015年2月1日(日)映画「盲目のクライマー」上映とヒマラヤ・トレッキング・スライド会を太宰府市太宰府館まほろばホールにて開催。一般参加者約130名。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-8 インターネット	京都滋賀	支部「ホームページ」による通年の安全登山の啓蒙、登山文化の継承活動。
	DM委員会	会務情報インターネットシステム提供(登山文化資料の公開、登山振興事業情報の周知、登山関係諸公的機関情報の周知支援)
I-9 登山教室の実施	北海道	NHK文化教室主催の登山教室への講師派遣協力
	宮城	地域の登山愛好家に呼びかけ、一般公募登山(登山教室)を3回実施した。
	山形	第1回公募登山7月は鳥海山にて一般参加者17名。10月は月山に於いて一般参加者17名。 総計34名
	埼玉	6月15日 第6回講習会「ハイキングレスキュー講習」で講師は埼玉県岳連遭難対策委員長の瀬藤氏が実施。 10月28日に第7回安全登山机上読図講習会 11月8日現地講習。 1月24日に第10回講演会 「油断と過信その思い込みが命取り」埼玉県警察山岳救助隊飯田副隊長による講演で54名が参加した。 2月21日 第8回講習会心肺蘇生法とAED使用方法の実施。
	東京多摩	第3期初心者登山教室(4月～6月)/受講生34名、第3期初級登山教室(7月～3月)/受講生25名、第2期初級登山教室(4月～3月)/受講生14名。
	越後	6月8日信越トレイル(関田峠～伏野峠)で参加者17名、9月7日信越トレイル(伏野峠～天水山)で参加者15名、10月5日銀の道(銀山平～駒の湯)で参加者28名であった。毎回支部会員が10数名参加し、コースが伴いながら植生や地理的・歴史的な説明を行い登山啓蒙を行った。
	石川	5月に実施 一般参加者5名ロープワーク研修をクライミングボードと岩場の両方で行った。講師は登攀指導有資格者の会員がボランティアで行った。
	静岡	ハイキングセミナーの実施。4月20日寸又峡・沢口山1425m鹿のヌタ場見学などセミナー生14名。6月8日安倍奥・八紘嶺1918m シロヤシオ等観察でセミナー生20名。10月19日安倍奥・大谷崩/頭1999m 大谷崩と崩壊防止・緑化の状況、フジアザミ等の観察 セミナー生30名
	東海	中日文化センター・NHK文化センター・朝日カルチャーセンターの3教室で年4期に分け通年開講し、いずれも座学と現地山行。
	関西	初心者・中級者・上級者各クラス毎に、共通の3回の座学と、クラス毎に9回の実技講習を行った。延べ参加者員103名。 「安全な登山の普及」を目的に、山登りの初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々を一般公募して実施した。
	広島	広島・呉・福山・岩国の4地区で毎月1回開催の「里山ハイキング」・「初級登山講座」・「中級登山講座」・「親子安全登山講座」(8月のみ実施)の4講座、10クラスに支部会員から講師・アシスタント講師を派遣した(延べ218名)。受講生は市民が延べ約1,100名が受講した。 広島支部主催で39才以下を対象の「ユースクラブ」を新設して、25回実施し、延べ80人が参加した。
	四国	「初心者向け登山教室」平成26年6月～平成27年2月までの毎月1回、香川県(高松市周辺)で実施。2月までの受講生延べ142名。最終回は2月28日から一泊で、大山での雪山安全登山講習会を実施。
	福岡	「パハルフェスタ in坊がつる」において、登山講座講師派遣と自然観察会等を担当。2014年4月26日(土)～27日(日)、大分県九重山法華院温泉山荘にて開催。一般参加者:50名
	熊本	第12回登山教室 九重連山 5月18日。九重山の横断道路の北にある泉水山から黒岩山の縦走登山を実施、目的のイワカガミや石楠花の花を觀賞しながら読図や休憩の取り方など学んだ。一般募集 参加者25名。 第3回勤労青少年登山教室 阿蘇鞍岳 7月27日一昨年からはまった青少年のための登山教室、今年は新聞広告や市内各所にポスター掲示したため、若干、参加者が増加した。13名
	東九州	座学(1回の講座、1コマ1時間を2コマ)4回、実践講座(1泊2日の山行)2回、計6回の講座初心者を対象に募集、定員30名としたが、応募者多数で34名まで増やして実施。講師は全て会員が担当し、講座の資料等は全て講師の手作りで実施。
集会委員会	6月22日「救急救助研修会」を実施した(通算3回目)。参加者は21名(うち一般参加者は5名)。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-11 登山指導	山梨	山梨県山岳レインジャー活動 7月から9月 甲州アルプス・大蔵高丸、御坂山地・黒岳、南アルプス・白根三山、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳で5回延べ8日間実施。
	山陰	大山冬山パトロール (2. 11及び3. 14～. 15の3日間 会員3名、鳥取県警2名合同で山頂までパトロール)
	遭難対策委員会	山岳遭難防止セミナー「山岳遭難の実態と救助現場からの声」 開催日：11月25日(火) 場所：東京体育館第1会議室 講師：長野県警察山岳遭難救助隊 宮崎茂男隊長 参加人数：60名
I-12 身体障害者支援登山	茨城	「茨城県 自閉症協会 協力登山」自閉症者協力登山は、6月に支部会員による下見登山、8月2日～3日に1泊2日で全員登山。参加者は自閉症者とその家族25名、ボランティア3名、茨城支部会員6名、合計34名で実施。
	埼玉	「障害者とのふれあい登山」26年4月6日一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と共同主催で第4回ふれあい登山を実施。目的地は秩父の小川町の仙元山と里山歩き。障がい者48名と付き添い45名、日本山岳会埼玉支部会員30名、スポーツ協会2名で実施。平成27年1月10日一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会設立10周年記念式典で埼玉支部のふれあい登山の実績が評価され「功労賞」を受賞。
	東海	「視覚障害者支援登山」：視覚障害者9名を対象とし5月11日奥美濃の蕪山で実施。支援者26名参加。秋は雨天中止。 「スペシャルオリムピックス愛知との登山」：4月14・15日鈴鹿ハライドにて開催。障害児10名参加
	YOUTH CUB	10月に視覚障害者登山サークル「六つ星山の会」の焼岳登山を支援。今回は青年部が主力だったが、今後はワングルも参加予定。身体障害者等社会的弱者に登山の素晴らしさを伝える事を目標とする。
I-14 海外交流事業	海外委員会	海外登山支援体制の一環としてチベット遠征海外登山勉強会を要請に応じて実施できる体制を確立した。
	東海	日中韓学生交流登山隊の派遣。8月6～12日(韓国北漢山国立公園エコ・ラーニングセンター)
I-15 幼稚園児から中学生までの体験登山	宮城	仙台市立愛子小学校が実施した5年生の泉ヶ岳登山に指導員を派遣して協力した。
	栃木	「親子登山教室」を夏休みに実施、一般参加者20名。自然に触れながら親子の絆を深め、他人と協働しながら人格育成の一助とした。
	群馬	群馬県山岳連盟主催「チャレンジキッズプロジェクト」に協力。3月のスノーシュー体験から9月のマチガ沢まで全4回開催 小中学生延べ37人が参加、支部から2人を役員として派遣など
	千葉	児童養護施設「晴香園」(千葉県松戸市)の課外活動(登山)の指導及び協力。①金時山(9月20日) ②陣馬山(2月21日)
	東海	幼稚園児を対象として「親子のふれあい登山教室」10月11日・12日に鈴鹿の尾高山で実施。本年で9回目。11日は33組66名の親子と教師5名支部員15名、12日は59組118名の親子と教師11名支部員15名。「親子で一緒に山に登ると云う体験を通して、感動を分かち合い、絆を深めると同時に都会では味わえない自然体験を」を目的として実施。
	京都滋賀	「親子登山教室」5月18日、11月2日、2月25日に実施した。一般参加者45名。地域の親子のための登山教室を開催した。支部会員は、ボランティアで指導者、補助員として参加した。
	関西	山の日の山行・・・6月1日、一般の方を対象に子供・孫を含めた「わんぱく探検」を開催した。参加者12名
	四国	平成26年9月14日、15日に、徳島県ボーイスカウト連盟と共催で、登山学校を実施した。菅生(すげおい)ロッジで宿泊、野外研修を行ない、翌日は剣山に登った。会員7名、会員外28名。
	北九州	「さいわい幼稚園」児童の風師山遠足登山をサポートした。
	東九州	「第13回青少年体験登山大会」初心者を対象に山登りの楽しさ、面白さを体験してもらい、登山の普及につなげていくことを目的に、青少年だけでなく、一般の初心者も対象に募集し、1日日帰り登山を久住山で実施した。国際山岳年(2002年)以来実施してきており、今年で13回目。(参加者・64名)
	宮崎	「こども登山教室」毎年夏休み期間中に実施、本年は小学生～高校生22人を支部会員18人が指導して、自然体験活動を通じ、自然との共存共栄を図り、自然愛護の心、団結・協調性、忍耐力などの育成に努めた。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-16登山道 整備	青森	「八甲田山遭難防止対策スキーコースポール立て」2月と3月に実施 一般参加者90名。 八甲田山登山道整備ボランティアも実施。
	岩手	西岳清掃登山 参加者7名 5月27日、登山シーズンを前にゴミ拾い、登山道整備を実施した。さらに岩手山八合目の小屋管理実施。6名参加 8月2～3日
	宮城	「山の日」制定を記念して泉ヶ岳清掃登山を実施した。
	秋田	「太平山山開き清掃登山」6月9日実施 一般参加者約33名。「太平山歩道整備」11月8日、歩道の刈り払い、ベンチ等の設置を行った。
	福島	年3回、吾妻山、安達太良山における荒廃登山道整備計画に基づき取り組んだが、天候不順により1回のみの実施に終わった。
	栃木	「日光山系清掃登山」を実施。
	埼玉	12月13日・14日秩父 二子山・大持山の清掃登山とヒマラヤ遠征報告会の実施。
	千葉	「新日本山岳誌」改訂版出版のための調査山行(16山)を行った。
	東京多摩	「雲取山石尾根の石積み登山道整備」5月21日・22日、東京都レンジャーとの協働作業として、雪解け後の登山道の石積み整備作業を行った。支部員6名、都レンジャー5名、環境省アクティブレンジャー1名、サポレン4名、計16名参加。11月には同様活動として川苔山清掃協働作業を行った。支部員9名、他11名、計20名。
	越後	公募登山や支部会員親睦登山での清掃登山や、弥彦山雪割草パトロールを実施した。
	富山	「高頭山登山道整備」5月31日に実施。「播隆祭」記念登山に先立ち、支部会員が登山道整備を行った。
	石川	「登山道整備活動」年11回実施(4月～11月) 一般参加16名 金沢、白山、加賀の各市の1ルート登山道の雑草の刈払や看板、ロープの補修や新設等を行った。
	福井	越知山登山道の整備。傾斜がきつい為、階段(50段)ロープ(50メートル)を取り付ける作業をした。
	信濃	ウェストン祭に合わせ事前に行行政機関と共に徳本峠登山道の状況調査や整備を行った。
	関西	六甲東お多福山復元化活動に参加。大阪府や各市町村が制定している自然歩道を、各自治体と連携して、道標整備や登山道の補修を行った。年間5回実施。
	山陰	島根県の出雲地方と伯耆地方の山々の調査を行い、山陰支部創立70周年を目標に「雲伯の山々」(仮称)を発刊予定。
	広島	11月29日(土)6名が参加して、聖山山頂付近の景観回復及び環境整備を行った。同日18名が参加して、高岳山頂付近の景観回復及び環境整備を行った。
	北九州	「英彦山清掃活動」北九州支部員19人の他、添田町職員、山岳団体等計90人(その内、北九州支部19人)の参加により、ゴミの回収作業を行った。
熊本	第15回・第16回森林保全巡視登山 4月26日(目丸山)12名 10月4日(高岳)9名	
東九州	登山者の多い九重山系の登山ルートを毎年場所を変えての清掃登山実施(指山観察道)	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅰ-17 山岳自然観察会の実施	岩手	自然観察会。仙人峠 6月14日 一般参加者1名、南本内岳 9月6日 一般参加者7名。仙人峠では廃れゆく峠道を探索、南本内岳では35種類の高山植物を観察・記録した。
	千葉	「房総ネイチャーハイキング」南房総の富山(とみさん349m)で実施。講師は県立中央博物館学芸員に依頼。県民30名参加。
	東京多摩	「自然観察会」一般市民対象に、8月21日「第5回御岳山レンジョウマ観察会」、1月7日「第5回高尾山シモバシラ観察会」、9月27日「国立四小高尾山自然観察ハイキング」実施。一般参加者83名。支部員は講師、リーダー、サポーターとしてボランティア参加。
	石川	自然観察会を県内の歴史あるハイキングコースで実施(会員の自然観察委員により、コースの歴史的背景や、植物の植生、生息する動物、眺望出来る山並み等を解説。)
	福岡	自然観察登山「イズモコバイモ観察と出雲の里山歴史紀行」2015年3月23日(土)～25日(日)に開催 20名参加。
	熊本	一般募集で集まった登山愛好家を含め、恒例の山の花鑑賞会実施、九重スキー場から猟師岳への登山道の途中で、貴重な花である純白のオオヤマレンゲの花を観賞した。参加者 38名
Ⅱ-2 山岳図書館の運営及び発刊事業	山陰	「雲伯の山々」(仮称)の発刊準備・調査(古事記など歴史を絡めて紹介する)
	図書委員会	山岳史懇談会「編集長・辰野勇氏が語る－新生『岳人』がめざすもの」開催 2014年9月19日 山岳図書を語る夕べ「探検家・角幡唯介さんが語る『探検』と『本』」開催 2014年10月3日
Ⅲ-1 森づくり活動	北海道	支笏湖復興の森づくり。NPO法人支笏湖復興森づくりの会に協力し2007年春から参加の本事業に北海道支部が分担する地域において初夏のアカエゾマツ人工林の下草刈りや秋の生長調査の実施。(・下草刈り 7月6日 参加者6人・生育調査 10月5日 参加者8人)
	青森	平成11年以来実施している「白神山地ブナ林再生事業」を津軽森林管理署と協力して実施(6月、11月に一般の協力を得て実施)。本年は一般参加者11名。下草刈りと植樹したブナの生育状況調査を行った。
	埼玉	緑の森博物館周辺の森づくり 下草刈り・枝打ち・等を9月28日実施
	福井	平成20年より福井県越前町より森づくりのために借りている藪山の整備を進めている。散策路の整備の為の樹木の伐採と苗木の植樹、花壇整備、草取りなど里山の復活を目指す。定例日以外にも、会員個人による作業が継続されている。11月16日(日) 和田小学校の親子を文殊山に引率した。
	岐阜	岐阜県林政部治山課との協働による「権現の森林づくり」を実施、26年度作業回数は14回(4月6日～11月23日)で、下刈り、育苗、林床の手入れ。参加者は延べ101名。
	東海	「猿投の森づくり活動」猿投の森と東大演習林における森づくりと市民の森林体験のための整備、森の幼稚園(11月8日)、森の音楽祭(10月25日)。
	関西	「本山寺山森林づくり」に関して平成24年5月18日近畿中国森林管理局長と「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を締結した。高槻市の「社会貢献の森」にて、関西支部の会員及び一般公募の会員により、毎月1回森林整備、自然環境の保全を行った。26年度は作業20回・植生調査1回・観察会2回実施、委員会・理事会各1回開催、4/15総会開催 会員・一般会員合計38名
	宮崎	「水源の森づくり」田野の森(宮崎市)、ロキシーヒルの森(西都市)、野尻の森(小林市)総面積1.1ヘクタールに広葉樹 2000本を植樹して、毎年3回(7、9、3月)下草払い、枝打ち、補植等の作業を行い、森林の育林・保護活動を実施。そのほか「水源の森づくりをすすめる市民の会」の団体会員としても活動している。26年度は延べ35人で作業。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ-2山岳環境 保全活動	北海道	「高山植物盗掘防止事業」を実施、実施期間6月1日～10月10日、大雪山系・十勝連峰、監視活動 延べ140回 実人数30名。日高山脈幌尻岳山岳環境保全協議会と協力し登山者排泄物による山岳環境汚染除去のため2005年からトイレ排泄物人力運搬事業に参加。併せて、山頂、七つ沼カール、トッタベツ岳の清掃も実施。(9月13日-15日 参加者4人)
	宮城	宮城県自然保護課が主催して毎年夏季に実施している栗駒国定公園内の世界谷地湿原保全対策事業に協力するため、5名の会員を派遣した。具体的な作業内容は湿原内のヨシとササの徐伐作業である。
	岩手	姫神山パトロール 年4回 15人参加。最近県外からの登山者が多くなった姫神山の植生の保護、登山道の保全に努めた。
	山形	「鳥海山ワシタカ研究会」鳥海山南麓に於いてイヌワシの動向調査を行う。9月28日 支部会員8名参加。
	岐阜	山岳パトロール 岐阜森林管理署内で森林保全巡視、環境美化のため会員のうち、登録者が巡視。
	東海	猿投の森の生物調査 (赤外線定点カメラ設置)
	京都滋賀	比良山系八雲ヶ原の自然保護活動に支部として参加した。比良ダンダ坊遺跡の整備、自然保護活動を支部会員が中心となって行った。
	広島	NPO法人西中国山地自然史研究会との合同事業として、戦後牧場として開拓された原野を、本来の湿原に再生し、鷹などの猛禽類や野生植物の再生を試みている。広島支部は4/20(土)23名(合計31名)、ひろしま「山の日」の5/31(土)22名(合計30名)が参加して、「霧ヶ谷湿原 自然再生地」(下流部 2.5ha・上流部 1ha)の保全活動を行った。
	北九州	森林保全巡視を実施した。九州森林管理局より委嘱を受けた巡視員26人が、1年間を通じて、夫々の山域でゴミ不法投棄の監視を始めとする巡視活動を行った。7月29日 井原山(11人)、11月16日 孔大寺山～湯川山(7人)。
	熊本	第15回・第16回森林保全巡視登山 4月26日(目丸山) 12名 10月4日(高岳) 9名
自然保護 委員会	「写真が語る山の自然：山岳写真データベース」 広く山岳会会員や一般から過去の山岳写真を集め、現在の山岳写真とを比べて山の植生や環境がどう変わってきたかを比較できるデータベース。利用者は一般の登山者や研究者。管理運営は自然保護委員会が行った。	
他1-1登山 活動指導	北海道	完遂したオホーツク分水嶺の彼方に続くカムチャツカを含めたロシア極東地域において、創立50周年記念事業として北海道の地理的特性を活かした北海道支部ならではの海外登山を計画。その前年に北大の協力の下、自然環境生態系観察を兼ねて沿海地方の世界自然遺産登録のシホテアリニ山脈南端の一座であるオーブラチナヤ山のプレ海外登山を実施した。(日程8月1日～6日 ・ 頂上到達 8月3日 14時15分 ・ 隊員 13名 うち支部会員11名うち北大関係者生態系観察隊長1名 支部会員以外の北大関係者生態系観察隊 2名)
	青森	毎年1月に鱒ヶ沢で山岳スキー研修、春と冬は八甲田山に夏と秋は多方面の山域に登山を行っている。また、20周年記念行事としての県境踏査を継続している。毎回数名から10数名の参加者である。
	東京多摩	「会員向け登山基礎講座及び安全登山講習会」定例山行/年8回実施、118名参加。平日山行/10回実施、95名参加。奥多摩山開き&新入会員オリエン交歓散策山行実施、27名参加。6月7-8日、三支部(山梨・埼玉)合同懇親山行。山梨支部主管開催。多摩支部から7名参加。
	東海	森林力養成講座、沢登り研修会、写真山行、森の勉強会、アイスクライミング研修会等を実施
	宮崎	登山研究会を毎月開催。情報交換、登山技術研修会を実施。 支部30周年記念事業として刊行する「神々の山を辿る」30座の踏査を会員56名で実施した。
	集会委員 会	会員のため登山を実施(国内は7月、8月、9月、12月、1月、2月、3月に実施、海外は6月に実施)。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
他1-2 文化活動支援	図書委員会	図書交換会の開催（12月6日）。 会報『山』の図書紹介と『山岳』の書評欄の、本の選定・執筆者選定・依頼・入稿
他1-3 年次晩餐会、支部懇談会	総務委員会	年次晩餐会の開催(12月6日 京王プラザホテル 510名)。秩父宮記念山岳賞受賞者、海外遠征隊による講演会の開催。
	北海道	(登山技術研修)ゲレンデを活用した岩登り研修、7-8月には沢登り研修、積雪シーズンに山スキー、スノーシュー登山研修、12-2月にかけて雪崩研修を座学・実習を全道で展開。20-30名の会員が参加。
	埼玉支部	全国支部懇談会を秩父市で開催して森会長をはじめ全国の支部から201名が参加した。
	関西	支部設立80周年(平成27年)に向けた活動の開始。 ・記念誌の発行準備。 ・記念山行・・・関西支部県境縦走を毎月1回土・日で12回実施、海外記念山行の具体的計画書を作成する。 ・記念式典の具体的内容を詰め、「山」への掲載、他支部への案内文書を送付する。・80周年記念行事への募金活動を実施する。
他1-6	会報編集	会報「山」のNo.827～No.838を発行した。

報告事項 平成 27 年度事業計画及び予算

事業計画

1. 公益目的事業

本会は、公益目的事業として(1)登山振興事業、(2)山岳研究調査事業、(3)山岳環境保全事業の実施を目的としている。事業ごとの主なポイントは下記のとおりである。

(1)登山振興事業（公益目的事業 1）

定款第 4 条第 1 項に定める本会事業は多岐に渡っているため、同条第 2 号から第 5 号に定める山岳研究調査及び山岳環境保全事業を除く事業を登山振興事業として一つにまとめた。主な内容は下記のとおりである。

秩父宮記念山岳賞表彰事業、海外登山隊への助成事業、機関誌「山岳」(第百十年)ほかの図書の刊行は従来どおりであるが、特に 4 年目となる若年会員の入会促進対策として展開している YOUTH CLUB 事業(登山講習会の開催、冬山天気予報の配信及び日・中・韓学生交流登山の実施等)に力を入れ、予算措置をしている。幸いにして会員の老齢化が YOUTH CLUB の活動によって緩和の傾向となっている状況が伺える。

また、国民の祝日「山の日」が制定されたことにより、関連する事業の推進体制の充実を図ることとする。

(2)山岳研究調査事業（公益目的事業 2）

定款第 4 条第 1 項に定める本会事業は多岐に渡っているため同条同項第 2 号及び第 5 号にかかわる事業の内、山岳研究調査にかかわる事業の一つにまとめた。主な内容は下記のとおりである。

山岳研究の基地としての「上高地山岳研究所」の積極的活用に加え、東京の事務所内に開設している「山岳図書館」について、その運営を担っている「図書委員会」による山岳図書館のより効率的な運営の下、会員外の方々を含む利用者の拡大を通じて山岳図書研究の推進している。

(3)山岳環境保全事業（公益目的事業 3）

定款第 4 条第 1 項第 5 号にかかわる山岳環境保護及び保全事業の一つにまとめた。主な内容は下記のとおりである。

東京多摩における「高尾の森づくり事業」、東海地区の「猿投の森づくり事業」をはじめとする全国 11 支部で実施されている森づくり事業を推進し、より全国的な規模での展開を目指していく。

また、全国自然保護集会等のシンポジウムの開催を通じて広く山岳環境の保全の必要性を訴え、登山愛好者としてのフィールドとしての山岳地域における環境の維持・保全を期す。

2. 会員向け事業（他1）

会員を対象とした会員のための事業としては、概ね下記のごとき事業を実施する。

- 1 会員を対象に定期的に登山活動を指導する(詳細は別表に記載)。
- 2 会員相互の文化的活動の支援を行なう。
- 3 創立 110 周年記念式典の開催(12 月)及び全国支部懇談会を開催する。
- 4 会員向けに日本山岳会ロゴ入り登山用具の頒布を行う。
- 5 会員向け山岳傷害保険の斡旋を行う。
- 6 会報「山」の発行(No.839～No.850)。
- 7 会員向けに上高地山岳研究所を研究基地として開放する。

3. 法人管理

平成 25 年度 7 月には、全国 32 番目の支部としての「群馬支部」が設立され、全国の支部化推進の観点から、支部事業委員会による支部運営等の応援体制を確立する。その一環として従来総会の前に短時間、開いていた支部長会議を廃止し、平成 26 年度から 9 月に全国支部会議を設定し、情報交換を密にする中で組織運営の充実を図っている。また、委員会についても、「公益法人運営委員会」の充実を図り、一般の法人改革関連法が求める法人としてのコンプライアンスの徹底とガバナンスの確立の一環として引き続き各種規程類の整備及び支部会計の適正化等を図り、公益法人として、確実な運営を期す。

1 業務執行体制

(1) 財政基盤の確立

本会の会費収入は平成 14 年度には 6800 万円を超えて現在までの最大を記録したが、平成 25 年度には 5200 万円と 1600 万円の減少となっており、通常業務の維持が困難になりつつある。この状況を打破するため、会員増強と支部活性化のための様々な対策を講じて来た。この間、YOUTH CLUB などの施策によって若手の会員の入会者が増えて会員減少に歯止めがかかったことは事実である。しかし、会の多数を高齢者が占めることによって、会費免除の永年会員の増加により、会の財政状況の悪化には歯止めはかからず、むしろ、悪化してきている。このような状況を打破するため、会員増強・財政基盤検討委員会において会員増加策と会員制度の検討を進める。一部の支部で取り組んでいる登山教室、会友制度は会員増加に有効な方策であることは実証されており、これら具体策を視野に入れる中で検討を進める。

(2) 内部管理機能の充実

各委員会は理事会の指導のもとに、本会が行っている諸活動の中核的役割を担っており、既存各委員会の活動がマンネリ化に陥らないよう注意喚起する中で、活動の活性化を図る。また、「公益法人運営委員会」の充実を図り、法人改革関連法が求める公益法人としてのコンプライアンスの徹底とガバナンスの確立の一環として各種規程類の整備及び支部会計の適正化等を図る。

(3) 支部運営体制の充実

本会には現在 32 支部が設立されているが、全国を網羅するには未だ不十分であり、会員が活動する基盤としての機能を十分果たしているとは云えない。特に関東地方において支部の充実が要請されている。支部事業委員会設立以降活動が不活発であった支部も次第に公益法人にふさわしい活動が行われるようになっており、27 年度には支部運営等の応援体制を確立する。

2 寄付金募集についての周知

平成 24 年 4 月に公益社団法人に移行して以降、本会への寄付が増加している。さらに平成 25 年 10 月に税額控除対象法人としての証明を取得することができた。これにより、一層寄付金を受ける環境が整うこととなった。

寄付金や助成金は特定の用途が決まっているため、本会の財政基盤の確立には貢献できないが、新規事業への取り組みなど本会の社会的存在意義の明確化、ひいては会員増強の要因と考えられるため各会員及び一般への寄付金税制の周知を図り、

一層の寄付金獲得に務める。

3 会員動向

平成 27 年 2 月末日現在会員数 5,084 名、平均年齢は YOUTH CLUB の活発な活動による入会者増等により 60 歳代後半で安定して推移して大きな変化は無いが、少子高齢化が著しい我が国の実情から、今後における会員の減少傾向、高齢化が避けられないものと認識し、今まで以上の会員増対策を講ずべく、あらゆる活動を通じて入会勧誘に務め、資料等の充実に留意する。

会員内訳は永年会員 349、名誉・永年会員 10、夫婦・永年会員 2、団体会員 83、名誉会員 2、終身会員 74、夫婦会員 127、通常会員 4385、青年会員 52 となっている。

4 事務処理の効率化

事務処理の増大に対応するため、会員管理システムの更新、本会会費の銀行口座からの自動引き落とし制度の導入などを実施し、事務処理の効率化を図る。

以上

別表 支部・委員会の活動

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-6 シンポジウムの開催	茨城	講師を外部または会員に依頼し、山岳、自然などに関する講演を実施山への関心を高め会員の増加につとめる。(4, 6, 9, 11, 1月に実施予定。合計一般参加者は、110名程度)。
	栃木	「夏山登山のタベ」を7月に「山の講演会」を11月に開催し、安全登山や山岳文化活動の啓蒙を行っている。一般参加者はそれぞれ80名程度。(一般財団)栃木県青年会館と共催、栃木県山岳連盟の後援を得て実施する。
	埼玉	平成27年6月にハイキング時のレスキュー講演会、10月に火山噴火と安全登山について講習会。平成27年1月に埼玉県警察山岳救助隊 飯田副隊長講演、埼玉県の山岳遭難事例について。平成27年2月に心肺蘇生法及びAED使用法の実演講習を行う。
	越後	毎年7月25日に新潟県登山祭として高頭祭を実施している。支部会員70名と一般参加者30名程度の予定。同時に来賓で登山界著名人を招き記念講演を行い、支部会員による弥彦山清掃登山も実施。
	富山	「山の日」の理解浸透と山岳文化普及のための「山の日」山岳講演会を実施する。2月に実施予定。一般参加者50名程度を予定。
	岐阜	山に関係する講師を招聘して、山岳講演会実施。11月に開催予定。一般参加者90名程度を予定。
	京都滋賀	「登山活動」、「登山文化」啓蒙のための講演会を実施。年3回程度を予定。さらに地域の自治体からの依頼を受け、安全登山を普及させるための「トレッキングスキルアップ講座」を開催している。支部会員が講師を務めている。
	福岡	「バハル・フェスタin坊がつる」4月に実施。一般参加100名程度。法華院温泉にて講演会、登山講習会、映画会、コンサートなどを実施し、翌日は自然観察会や登山実践講座などを開催。
I-7 「山の日」事業プロジェクト	北海道	「山の日」推進事業の一環として地元の山岳会、関係機関と協力しファミリー登山など登山人口の多い札幌近郊の廃道登山道を選定のうえ笹・下草刈りなどを行い登山道の復活を図る。本事業をきっかけに地元山岳団体が一体となって登山道保守管理により道民の安全登山普及啓発活動を加速し「山の日」活動を推進する。対象計画登山道 札幌近郊の山(札幌岳豊滝コース、空沼岳から札幌岳まで)
	宮城	「『山の日』制定記念3支部合同山行」「山の日」の祝日化を記念して、秋田県、山形県及び宮城県が隣接する山域の分水嶺への山行を3支部合同で実施し、「山の日」を実りあるものになりたいと考えている。秋田・山形両支部のご理解を得るとともに、地元自治体や関係機関への働きかけも行う予定である。
	群馬	「山の日制定記念写真展と講演会」上毛新聞社との共催による「群馬の山」写真展及び講演会(8月頃。講演者は未定)
	千葉	「山の日」制定に関連して県内の登山界以外の文化、芸術関係団体などと連携した山に関する総合的な発表の場を設け、「山の日」のPRと県内の各団体との連携を図る。「山の文化祭」と銘打ったパネル展の企画など。
	東京多摩	「山の日」広報活動として高尾山で3回目の高尾集会を開催。
	福井	山の日記念山行を実施
	山梨	第1回新・山の博覧会(仮称)実施予定(山梨学院生涯学習センター、山梨県やまなし山の日実行委員会との共催)。開催日:7月、場所:山梨県甲府市・山梨学院メモリアルホール テーマ:登山振興と山岳文化を広く一般に周知、啓発していく。特に、安全登山、遭難事故防止にも注力する。なお、例年参加者は支部会員30名、一般参加者400名程度
	信濃	「ウェストン祭」6月1日(6月第一日曜日)に上高地ウェストン碑前広場において実施。山の安全を祈ると共に、講演により登山や環境保護などの啓発を行う。参加者は、地元の小学生を含め約300人。前日には徳本峠を越え、先人を偲ぶ記念山行を行う。 【岳都松本山岳フォーラム】広範な分野から山の魅力を伝えると共に、特に次世代に向けて山の豊かさや楽しさを知ってもらう。
	東海	「夏山フェスタの開催」6月20・21日にウインク愛知にて開催。集客目標7000人(夏山フェスタ実行委員会を開催主体とするが東海支部は登山振興事業を中心として活動する)
	四国	山の日制定記念として「親子登山学校」を開く予定。
	福岡	「岳人のつどい」として実施(新春に開催、一般参加100名程度。山の映画会や講演会を太宰府で開催)。
	東九州	「山の日集い」(仮称)を他の山岳クラブや各種団体等に呼びかけて実施する
	山の日事業委員会	2016年に施行される国民の祝日「山の日」に向け、2015年4月以降、JACがおこなうべき諸企画の立案とこれに関連する支部、グループ、委員会活動などをサポートする。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-9 登山教室・安全登山吹き夕講習会の実施	北海道	NHK主催の登山教室に指導者派遣(夏冬に実施)。
	宮城	「親子登山教室」年2～3回、親子で自然に親しみながら登山の知識や技術を学べる教室の開催を計画
	山形	一般公募登山(年二回、6月10月実施) 一般参加者各回約25名程 蔵王山系及び摩耶山系で実施。
	福島	一般公募の支部主催「岩登り講習会」を継続開催し、安全登山の普及と技術の向上に努める。
	群馬	「少年少女登山教室」群馬県山岳連盟による沢登り、スノーシューを協力開催し 若い会員の入会を促進し、密度の濃い育成を図る。
	東京多摩	「初心者登山教室」(立川市教育委員会との共催 4月～6月に講座 30名募集)及び初級登山教室(初心者登山教室卒業生対象に実施 合せて2年間の登山教室により、多摩地域に安全登山を目指す自立した登山愛好者を育成している。)
	富山	県教委及び富山市主催の集団登山指導者講習会に指導者を派遣している。
	越後	安全登山の実践と啓蒙活動を目的に、公募登山による「安全登山講習」の実施。支部会員による山行企画と事前講習を行い、引率ガイド及び登山実技指導を行う。6月上越国境、9月信越トレイル、10月塩の道(白池～戸倉山～平岩)にて実施する。
	石川	年2回主に初級者向けに実施 [5月(机上研修)、8月(実地登山研修)] 一般参加者30名。安全登山教室は地図、天気図の見方等。ロープワーク・登攀ギア操作講習会は地域の登山ビギナー対象に実施。講師は支部会員の専門家が担当。
	静岡	ハイキングセミナーを年3回実施。4/26(日)竜爪山・文殊岳1041m、5/31(日)安倍奥・大光山1661.3m、12/13(日)沼津アルプス。公募(初心者)マスコミへ依頼、リピーター(過去3年間で約100名)への案内
	東海	中日文化センター・NHK文化センター・朝日カルチャーセンターの3教室で年4期に分け通年開講し、いずれも座学と現地山行。中日教室では、山ガール講座も併設。教室卒者は正会員または支部友として受け入れる。若年者は東海ユースへも受け入れる。
	関西	初心者・中級者・上級者各クラス毎に、共通の3回の座学と、クラス毎に9回の実技講習を行う(「安全な登山の普及」を目的に、山登りの初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々を一般公募して実施する)。
	広島	広島・呉・福山・岩国の4地区で毎月1回開催の「里山ハイキング」・「初級登山講座」・「中級登山講座」の3講座10クラスと、年4回開催する「親子登山講座」に支部会員から講師・アシスタント講師を派遣する。(延べ248名) 受講生は、市民延べ約1,200名が受講予定。
	四国	6月から翌年3月までの間に数回実施する。(検討中) 地元新聞に「登山教室」の案内を掲載し、登山用品店には案内チラシを置いて受講生を募集する。27年度は受講場所を香川県から愛媛県(主として松山市周辺)に移し、会員獲得につなげる。
	熊本	年2回、6月と9月に実施。会員・会友と一般参加者:各行事ごと定員45名、年間90名。熊本市の勤労青少年ホームと共催で実施。35歳以下の登山愛好家30名
	東九州	初心者向け登山教室を座学4回、実践講座2回の計6回の計画で実施する。教材、講師等全て会員と会員の手作りで実施する(定員は20名程度)
集会委員会	会員外を含めた安全講習会を6月28日に開催	
YOUTH CLUB	60歳未満の一般登山愛好家を対象に、年間を通じて初歩的な登山の知識についての机上講習会を実施する(12回)。また、机上講習修了者による登山の実地講習会を開催する。	
遭難対策委員会	遭難救助事例の多い県警察本部から講師を招聘し、一般登山者を対象とした遭難防止対策セミナーを開催する。平成27年度は開催を希望する支部においても実施できるよう支援を行う。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-11 冬山登山指導	青森	八甲田山スキーコースに地域関係者と共に遭難防止用の竹竿を設置している。年2回2月と3月に実施 一般参加者60名。
	山陰	毎年、冬山で滑落・死亡事故が発生している為、大山の冬山パトロールを鳥取県警と連携し現地指導実施。 1泊2日×3～5名×2回＋鳥取県警2名 大山寺～頂上 往復
I-12 身体障害者支援登山	茨城	「茨城県 自閉症協会 支援登山キャンプ活動」(年1回、茨城県自閉症協会が実施する登山に支部会員が同行し支援する。参加者：自閉症者と家族 20～35名)。
	埼玉	「障害者とのふれあい登山」。平成27年4月に一般社団法人 埼玉県障害スポーツ協会と共同主催で障害者、その家族、スポーツ協会スタッフ、埼玉支部のメンバーで仙元山にふれあい登山をする。24年は総勢55名、25年は80名で実施し、今年はさらに多くの参加者を予定している。
	東海	「視覚障害者支援登山」(視覚障害者を対象とし春季、秋季の2回開催。)「スペシャルオリックス愛知との登山」(知的発達障害児を対象とし春季開催。)
	熊本	NPO法人スペシャルアスリート熊本と共催で知的障害者とその保護者を会員の引率で登山を実施 (知的障害者に登山の楽しみを味わってもらう、8月中旬に予定。) 参加者：会員25名、障害者15名、保護者20名
	YOUTH CLUB	前年度に引き続き、視覚障害者の登山愛好グループが企画する登山に同行し、安全な登山ができるよう必要な支援を行う。
I-14 海外交流事業	茨城	日韓交流登山の開催に取り組む(10月度 3泊4日予定)
	海外委員会	諸外国の山岳団体加盟会員を対象とした残雪期の富士山登山実施。6月上旬に実施、募集の規模は10名程度。チベットのエキスパート、山岳医療、気象のエキスパートを招いた講演会の実施。3か月に1回、計5回の講演で、既に12月と3月の2回は26年度中に終了。
I-15 幼稚園児から中学生までの体験登山	北海道	「自然児学校」15回目を数える事業。親と子供達を対象に森・川・山でアウトドア生活を体験するとともに自然の美しさ・厳しさに接し、自然保護・共生の精神とともに国土・自然を守り、自然を侮らない・自然と共生できる模範となる将来のアルピニストを育てることが目的。
	山形	県内の小中校の学校登山及び公民館等主催の登山に支部会員が積極的に協力し、若い登山者の育成を目指す。昨年度は酒田市内の小学六年生父兄同伴49名の登山を支援した。27年度も同規模で実施。
	福島	7月下旬、地域の子ども会等に働きかけ、「夏山・親子ゆめ登山(参加者20名)」を実施する。
	栃木	「親子登山教室」を夏休みに実施。栃木県教育委員会、日光市教育委員会、栃木県山岳連盟の後援を得て実施する。参加人員は30名程度の見込み。
	千葉	児童養護施設の屋外活動の指導者を派遣協力する。
	東海	「親と子のふれあい登山教室」(幼稚園児を対象とした登山体験で秋季に2回開催。)
	京都滋賀	「親子登山教室」年4回(5月、8月、11月、2月)実施。一般参加者 年50名
	関西	一般の方を対象に子供・孫を連れた「わんぱく登山教室」を開催する。
	四国	山の日制定記念として「親子登山学校」を開く予定。
	北九州	「幸幼稚園」のデイキャンプ支援を実施。5月中旬、「年少組」及び「年中・年長組」に分けて2日間にわたり、風師山への遠足登山をサポートしている。
	東九州	「青少年体験登山大会」初心者に山登りの楽しさ、面白さを体験してもらい、登山の普及につなげていくことを目的に青少年をはじめ、一般の初心者を対象に体験登山大会を実施する。(過去13回実施、参加者は毎年40名から60名程度)
	宮崎	「第18回こども登山教室」毎年夏休み期間中、小・中・高生25人を支部会員25人が指導して、登山・創作・野外活動など自然体験活動を通じ、自然との共存共栄を図り、自然愛護の心、団結・協調性、忍耐力などの育成に努める。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I—16登山道 整備	岩手	会員を中心に山道整備や山小屋管理に取り組む。相ノ山&岩洞湖清掃登山 5月23日(土)
	秋田	「太平山歩道整備」(毎年11月上旬、歩道の刈り払い、案内板等の設置を行う)。毎年6月第2日曜日に行われる「太平山山開き清掃登山」にリーダー派遣をし協力。
	福島	年3回(6月、7月、9月)荒廃している登山道の整備・復元作業を実施。特に県山岳連盟傘下の地元山岳会に働きかけて、合同実施を働きかける。
	栃木	「日光山系清掃登山」を実施し、山岳環境の保全に努めている。7月に実施。一般参加者350名
	東京多摩	雲取山登山道整備を雪解け後に実施。登山道の石積み作業に会員を派遣。東京都レンジャーとの協働活動として登山道清掃作業を11月に実施。
	富山	「高頭山」登山道整備(年1回、5月30日に実施。支部会員が登山道整備を行う)。
	石川	「登山道整備活動」年5回実施[4月(1回)、5月(2回)、6月(2回)] 一般参加20名 歴史ある往年の廃道を復活・整備し、地元集落や登山関係者に貢献登山道の雑草刈払い、案内板及びロープ等の付替え等
	福井	環境週間時に清掃登山を実施
	関西	六甲東お多福山復元化活動及び環境省主催の大台ヶ原利用協議会参加、やまみち保全巡視等を行う。
	広島	聖山山頂付近の景観回復及び環境整備並びに中央分水嶺(聖分れ〜匹見)の登山道整備。高岳山頂付近の景観回復及び環境整備
	四国	年2回、石鎚国定公園、剣山国定公園内の監視活動としてゴミの収集、登山道整備等を行う。
	北九州	通常会員、支部友、一般を対象に約60名の参加を得て、英彦山の登山道の清掃登山を実施する。
	熊本	保全と清掃を実施するため「森林保全巡視登山」を4月と10月に実施。
	東九州	登山者の多い九重山の登山道を毎年場所を変えて選定し、清掃登山を実施する。
I—17山岳自然 観察会の実 施	岩手	「剣ヶ峰」自然観察会 10月10日(土)登山愛好者向けに早池峰山に連なる剣ヶ峰の植生の観察。会員以外にも広く呼び掛け学習登山を実施。「片羽山男岳」自然観察会 11月7日(土)、3・11後の沿岸山城の探索。
	秋田	秋田市仁別植物園の来園者に植物、樹木等の説明や自然観察会等を実施。(年4回 一般参加者100名程度)
	山形	「鳥海山ワシタカ研究会」の活動に参加し、動向調査等の事業を支援する。
	東京多摩	地域の登山愛好者向けに地域山域内の自然観察会を行う(年2回実施、一般参加者50名、季節毎に御岳山レンジョウマ観察会、高尾山「氷の花」シモバシラ観察会を実施、支部会員はボランティアで指導者・補助員として参加)。 国立市立第4小学校児童の高尾山観察登山に指導員、補助員を派遣している。
	熊本	5月下旬、阿蘇や五家荘の山野草の鑑賞、観察。一般募集して会員との交流も図る。
II-2山岳図書 館の運営事業	図書委員会	「山岳史懇談会」(山岳史についての講演会。)、 「山を語る」(山の文化に関する講演会)などの講演会を実施する。(これら講演会は、『山と溪谷』、『岳人』に告知して会員以外の参加を呼びかける)。
III—1森づくり 活動	北海道	NPO法人支笏湖復興森づくりの会に協力し、本事業を進めている。
	青森	「白神山地ブナ林再生事業」を津軽森林管理署と協力して実施(6月、9月に一般の協力を得て実施。一般参加者約20名程度)。
	福島	吾妻連峰・酸ヶ平などの植生復元に努めている吾妻山自然倶楽部と共催して「吾妻山湿原地帯植生復元作業」を実施する。ヒメスギの種の採取、種蒔き等の作業に参加、年1回、6月に実施する。
	福井	福井県越前町旧糸生中学校隣の山林にて、散策路の整備と苗木の植樹、花壇整備など5月～11月の間、毎月1回作業を行う。
	岐阜	岐阜県林政部治山課との協働による森林づくりを実施(年14回実施予定、一般参加者約120名程度の見込み)。
	東海	「猿投の森づくり活動」(森づくりと市民の森林体験のための整備、森の幼稚園、森の音楽祭の実施。)
	関西	「本山寺山森林づくり」高槻市にある近畿中国森林管理局管内の「日本山岳会関西支部本山寺の森」において、関西支部の会員及び一般公募の会員により、毎月2回以上森林整備、自然環境の保全を行う。近畿中国森林管理局長と協定の更新を行う。
宮崎	「水源の森づくり」(田野の森(宮崎市)、ロキシーヒル(西都市)、野尻の森(小林市)総面積1.1ヘクタールに広葉樹1,600本を植樹して、毎年3回の下草払い、枝打ち、補植等の作業を行い、森林の育林・保護活動を実施)。	

事業名	支部名 委員会名	事業内容
Ⅲ-2山岳環境 保全活動	北海道	「高山植物盗掘防止事業」を実施。
	岩手	花の山と言われる焼石岳の植物の保護を中心とした環境保全を目的として焼石岳パトロールを6月～8月の間に3回実施予定
	宮城	「世界谷地湿原保全対策事業」栗駒国定公園の世界谷地湿原は、ヨシやササが繁茂して湿原としての植生形態が損なわれつつある。宮城県ではその対策として除去作業を実施している。当支部は27年度も協力する。
	群馬	群馬県北5市町村と群馬県山岳連盟が主催する「スカイビューウルトラトレイル」普及発展に寄与すると共に、相反する環境問題についての啓発活動を推進する。
	埼玉	6月玉原高原でブナ林・湿原観察, 10月父見不山(ててみずやま)鹿害調査、28年1月に埼玉の自然シンポジウムを開催。
	東海	猿投の森の生物調査。
	京都滋賀	比良ダングダ坊遺跡の整備、自然保護活動を行なっている。 滋賀県比良山系八雲ヶ原の植生再生についての活動を行う。
	広島	NPO法人西中国山地自然史研究会との合同事業として、戦後牧場として開拓された原野を、本来の湿原に再生し、鷹などの猛禽類や野生植物の再生を試みる。広島支部は「霧ヶ谷湿原自然再生地」の最下流部約2.5ha、上流1haの保全活動を担当する。
	東九州	祖母・傾山系のスズタケの枯死状況と鹿の食害状況を調査するため年2回定点観測を行う。
	自然保護委員会	「写真が語る山の自然：山岳写真データベース」山岳会会員や一般から過去の山岳写真を集め、現在の写真とを比べて山の自然環境がどう変わってきたかを調べるためのデータベース。一般の登山者や研究者が利用者として見込まれる。
他1-1	集会委員会	会員のため登山を実施(年5～8回程度)。
他1-3	支部事業委員会	「全国支部懇談会等」主な支部事業への参加。 新支部設立の推進及び支部活動への指導。
他1-6	会報編集委員会	会報「山」のNo.839～No.850を発行する